



毎年行われている小中合同一斉下校に合わせた通学路の安全点検と、それを基に行われた通学路検討会で協議された内容をお伝えします。それと、小学校で行われた黒板ジャックの様子をお伝えします。



## 通学路の安全点検と、対応について

青木村教育長 沓掛 英明

青木村では、6年前から、小中学校の子どもたちの合同下校の時に、子どもたちや先生方が通学路の危険箇所をまとめ、その報告書を基にして関係者が検討会を行って、対応を考えています。子どもたちの安全を守る大切な取り組みとして位置付けています。今年も、大きな成果が出ていますので、その報告をします。

### <小中合同下校と通学路点検の様子>

小中学校では、4月10日に合同の地区子ども会を行い、その日に合同下校を実施しました。その際、通学路の危険箇所を写真に撮るなどして危険箇所を確認しています。内容は、道の横を流れる川に対する注意であったり、草が生い茂ることによって、歩道が狭くなったりと子どもたちの登下校にかかわって、様々な視点から注意点が書かれています。子どもたちと、先生方が一緒に危険箇所を確認しながらの下校になっているので、改めて、気をつけなくてはならない場所について確認できる良い機会になっています。

その後先生方には、危険箇所を分かりやすくまとめてもらい、報告書を作成してもらっています。





### <通学路検討会での話し合い>

次に、学校でまとめてもらった、報告書を基にして、関係者が集まって通学路検討会を行いました。参加者は、小学校、中学校の担当の先生方。駐在所の佐土さん。役場の総務企画課と建設農林課の担当者。それに教育委員会の担当者です。



まず、学校から危険箇所を報告してもらい、早急に対応していく必要がある箇所や、今後時間を掛けて対応していく箇所を話し合いました。

今年、一番問題があり、早急に対応していく必要があると考えた箇所は、青木小学校前の信号機のある交差点でした。ここでは昨年、赤信号であるにもかかわらず、交差点に入ってきたトラックと、小学校側から出た乗用車との接触事故が発生しています。また、今年になっても、急ブレーキを掛けて止まる車も確認されました。



今後交通量が増えると、一層注意が必要な場所となります。そこで、運転者が交差点の前から十分速度を落とし、安全な運転をしてもらうための対策を、至急考えていくことになりました。



### <通学路合同点検の内容>

通学路検討会の結果を受けて、7月30日（火）には、上田建設事務所の担当の方、上田警察署の担当の方、佐土駐在所長さん、青木小学校長さん、教育委員会の担当者の方たちが、小学校前の信号機のある交差点に集まり、対応を検討しました。

すぐに出来ることとして、信号機のすべてが赤になる時間が2秒に設定されているところを、3秒に延ばすように調整をしてもらいました。赤の時間が3秒に延びることで、赤信号で突っ込んでくる車があっても、出会い頭の衝突が避けられるということでした。(当然、そんな事態にはなってほしくありません。子どもたちには、信号が青に変わっても、左右の確認をしてから、渡って欲しいと思います。)



【この先信号あり】

更には、交差点に入る道路のカラー舗装や、ドットラインなどの路面標示も効果的ではないかという意見が出されました。また、松本側のカーブ付近に「この先信号あり」の警戒標識を立てても良いのではないかという意見も出されました。警戒標識等の設置は、道路管理者である上田建設事務所の管轄になりますので、今後、上田建設事務所でも対応を検討されることになっています。



今年の報告は以上です。4月の合同下校から、関係される方々が迅速に対応していただき、成果が上がりました。これからも子どもたちの安全のためには、教育委員会をはじめ、関係者が協力して対応をしていきたいと考えています。



黒板ジャック



今年の夏、武蔵野美術大学の学生さんたちが青木村を訪れました。青木村郷土美術館では【あおてん〜そこのけそこなし青天井〜】と題して、青木村で感じた魅力や表情などを表現した展覧会を行いました。また、小学校では黒板いっぱいチョークで絵を描く黒板ジャックが行われました。今回は、黒板ジャックと3、4年生を対象にランチルームで行われた鑑賞会の様子をお伝えします。





## 編集後記

通学路検討会は、子どもたちの安全確保のために今後も続けてほしいですね。ドライバーの方は安全運転をお願いします。令和6年度後期はつつネットワーク参加団体活動計画表を作成いたしました。詳細は、各団体の代表者または教育委員会（49-2224）へお問い合わせください。

